

# PIXEL

ピクセル  
'92 2  
No.113

特集●AUTOFACT'91と次世代CAD  
特集●CAD/CGのいろいろなデータ形式  
連載第1回 CGによるレンダリングのための基本モデル  
仮想現実感の住環境設計への応用



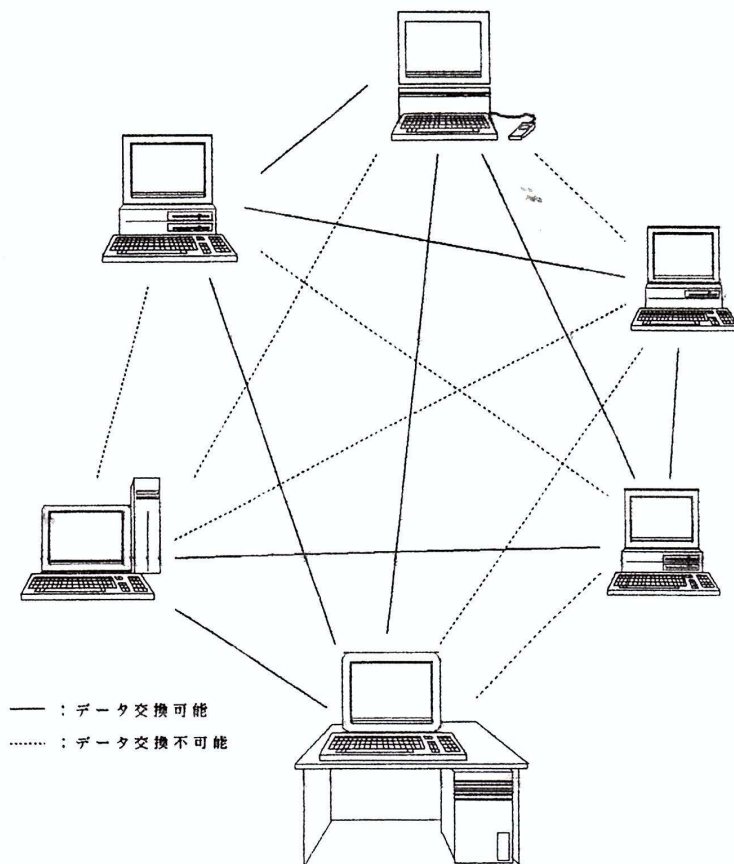


図3 現代のデータ交換の実態

データ交換が可能といっても形状データのみが可能という場合が多いようだ

表現方法が異なる、単なるバグなどに集約される。データ交換を使用目的の面から考えると、どの程度のデータ交換を要求するかはユーザーにもよるが、専用インタフェースの方が、業界標準で定義されているデータだけでなく、データ交換を行う複数のシステムを最大限に有効利用することが可能というメリットもある」(伊藤忠テクノサイエンス ソフトウェア営業本部 浅香氏)

### おわりに

現在の形状データを扱うソフトには、汎用というシステムは存在しない。建築設計用、配管設計用、機械設計用、金型設計用、PCB設計、ASIC設計用などすべてが専用CADシステムとなっている。強いて汎用というならば3次元CGシステムのモデラーがそれであろう。

このような専用の時代に、汎用のデータ交換用中間ファイルフォーマットでは無理があるのも当然と言える。

この問題の解決の一步として、各専門業界ごとに独自のフォーマットを作ってみたらどうだろうか。その業界内では使用するデータはほとんど同じはずなので、かなり変換効率の高い中間ファイルまたは専用インタフェースが期待できる。

時代はすでに、データの互換性が確保されなければCADとして利用できない時代に入っている。

「データ交換の問題は、相手システムに対応するデータがない、相手システムと